

非常識・・・

自 分は常識的な人間だと思いますか？それとも非常識な人間だと思いますか？

一般的に使われる「常識的」という言葉は、ポジティブな意味が含まれていると思います。「あいつには常識があるから安心できる」とか、「常識のある人間になりなさい」とか、つまり多くの場合、学校や社会で〇を貰えるような人間を指していて、多くの人は、自分にも他人にも、この「常識的」な状態を良しとしています。

一口に言うと、「普通」だということです。

良く言えば、「調和のとれた人」とか、「良い人」とか、「健全な人」、となるんでしょうが、少し見方を変えてみると、平凡な人、人並みな人、標準的な人、型通りの人、当たり障りない人 etc…。

一方で、「非常識」という言葉は、ネガティブな意味で使われることが多いと思います。常識外れとか、社会不適合者とか、基本的に予測不能、理解不能な人間として扱われ、「変人」と呼ばれることもあります。

しかしこれもまた見方を変えてみると、「常識に捉われない人」とか、「型破りな人」とか、「常識の殻を破る人」だとか、必ずしも良い表現とは言えないけれど、ある種の異端児—ある分野において主流には属さないけれど、特異な存在として注目を集めているような人のことを言うのですが、そういう扱いを受けることもあります。

どちらが良いのかという話になってくるのですが、どちらとも言えません。

親や教師の言うことを鵜呑みにし常識ばかりに捉われてしまって、生き方そのものを常識で固めてしまっても、苦労や苦悩は少ないかもしれないけれど、可もなく不可もない、何の変哲もない人生しか待っていないと思います。

だからと言って、非常識だけを纏って生きていけるほど、社会は甘くありません。

要はバランスです。バランスが大事。

そして、本当に大事なものは、常識とか非常識とかのくくりではなく、どれだけ相手の感情をキャッチできるか、なんですね。相手の感情をガッチリ掴むことができれば、常識とか非常識とか、そういう概念は特に関係ありません。

ただ、言葉の定義で言うと、人は常識的なものに安心感を覚え、非常識なものに感情を動かされます。

常識の上の非常識

という言葉覚えておいてください。

全部非常識だと、それこそただの社会不適合者ですが、守るべき常識を守った上での非常識な側面というのは、相手の感情を揺り動かし、掴んで離さないための、かなり良いスパイスになります。

良く考えてみてほしいんですが、世の中の成功者と言われる人間たちは皆、常識の上に非常識を持っています。意識してかしないでかは別として、必ず持っているんですね。そしてそういう人たちは例外なく魅力的です。

それで、常識的な行動や考え方については、これまで散々と親や教師から叩き込まれてきたと思うので説明の必要はないと思いますが、非常識な行動や考え方と言われると、正直よくわからない部分だと思います。

なので、軽い例え話をしたいのですが、初対面で目上の相手に挨拶をする場面を思い浮かべてください。それで日本人だと、「はじめまして」と会釈して、サラリーマンだったら、名刺を渡して、「●●と申します。どうぞよろしく申し上げます」とか言って終わると思うんですね。

で、これは普通なんですが、そうじゃなくて、最初にとびっきりの笑顔で握手を求めます。わかります？しないですよ、日本人は、握手。挨拶と同時に堂々と握手を求められると、大抵の人は一瞬たじろぐんですが、次の瞬間、相手も遅れて手を差し出します。

そして相手は、「あ、この人は何か違う」と多少なりとも思うわけです。握手の文化がない日本人の場合はこうです。欧米では当たり前の文化なので普通ですが、日本では普通ではないのです。つまり、非常識ということになります。

もう一つ例なんですけど、たとえば女性から「あんたブサイクだよ」と言われたらどうなります？大抵の男は傷つくか、怒り狂うかと思うんですが、こんな風に考えをシフトしてみたらどうでしょうか。

女:「あんたブサイクだよ」

俺:「(あー、こいつ俺の事がそんなに気になってるんだ)…ニコッ(微笑)」

女としては、「？」ですよ。意味がわかりません。ひどいことを言ったはずなのに、なんでこっちをちらっと見て「ニコッ」なんてするのか。全然意味がわからないんだけど、でも、「あんたブサイクだよ」って言われて「シュン…」となっている男を見るよりも、ああ俺のことが好きなんだな、興味があるんだな、という思いを含んだような顔で「ニコッ」と微笑みかける男のほうが何倍も魅力的に見えるんですね。

キーワードとしては

「自分の常識に生きる」

ということです。

一般的な常識に生きるでも、一般的な非常識に生きるでもなく、自分の常識に生きると決めたらいいと思います。相手の常識に合わせていたら、握手なんてできません。女性が言ったひどい言葉をそのまま受け取っていたら、いつまでもヘタレのままです。

自分の常識に堂々と生きていけば、相手を自分に合わせさせることができるし、常に相手の感情の支配権を自分が持つことになるのです。

簡単な説明でしたが、「非常識」の解釈がちょっと変わったんじゃないかと思うんですね。非常識と言っても別に相手を怒らせるような事をするわけじゃあもちろんないです。あくまで相手の感情を動かす、キャッチする、ということなんですね。

これからしていく話では、このような“ある意味”非常識なテクニックやノウハウがたくさん出てきますので、この概念をよく理解しておいてください。

ということで、記念すべきAMCの第一号目「Episode 001:本能的魅力の秘密①」は、この辺で終わりにしたいと思います。